

嘉麻市が女性や若者に選ばれるまち となるために

アンコンシャスバイアスの気づきとジェンダーギャップの解消

嘉麻市役所 男女共同参画推進課

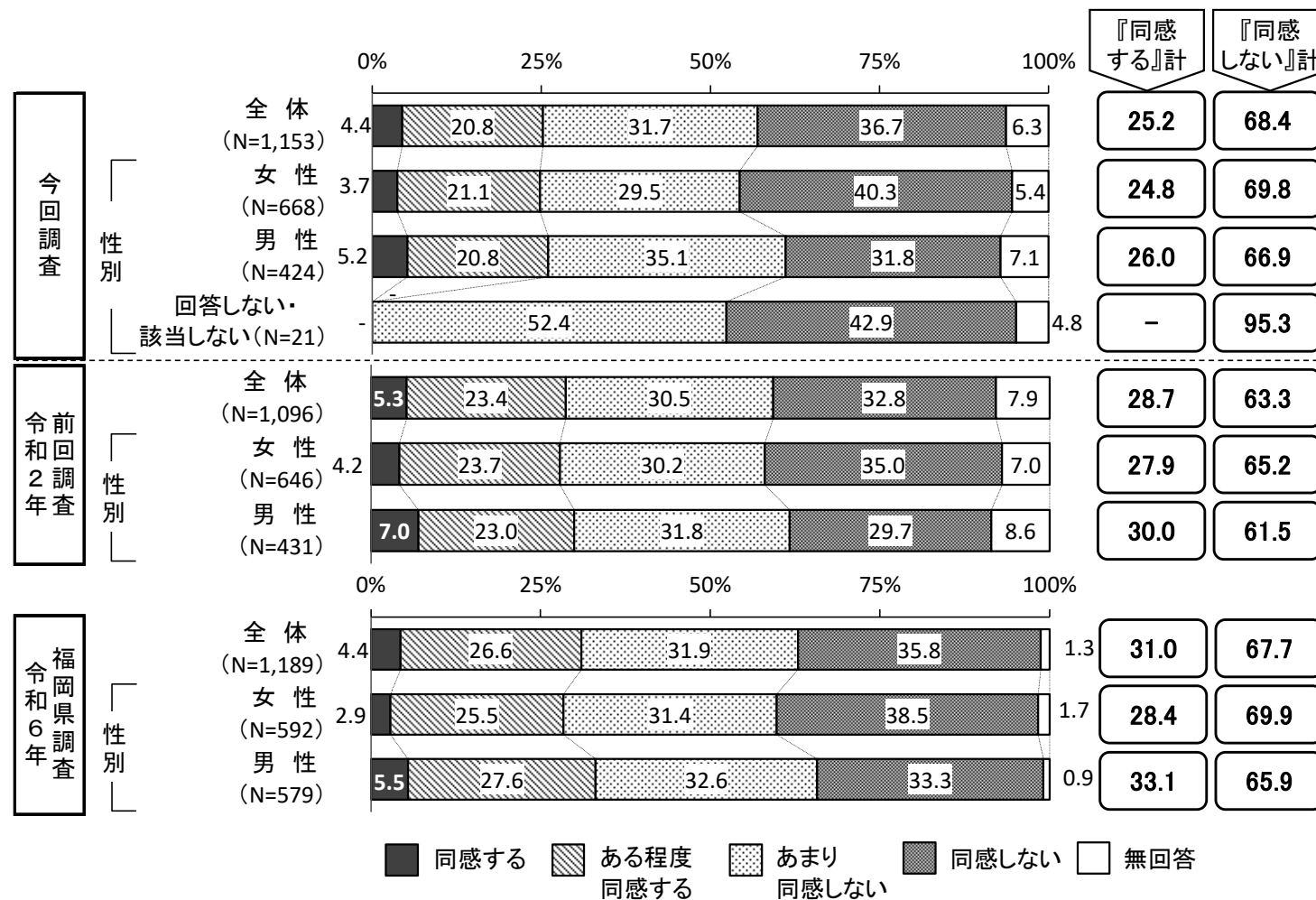
▶ 嘉麻市の男女共同参画推進における主な課題

1. アンコンシャス・バイアス

市民の意識の中に残る固定的な性別役割分担意識である。家庭や地域において「男性は仕事、女性は家庭」といった考え方が依然として見られ、男女平等の実現を妨げている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方に『同感しない』人は女性では約7割、男性では6割台半ば。前回調査よりも性別役割分担を容認しない人が男女とも約5ポイント増加している。

令和7年度実施 男女共同参画社会に向けての市民意識調査 抜粋
図「男は仕事、女は家庭」という考え方〔全体、性別〕（前回・福岡県調査比較）

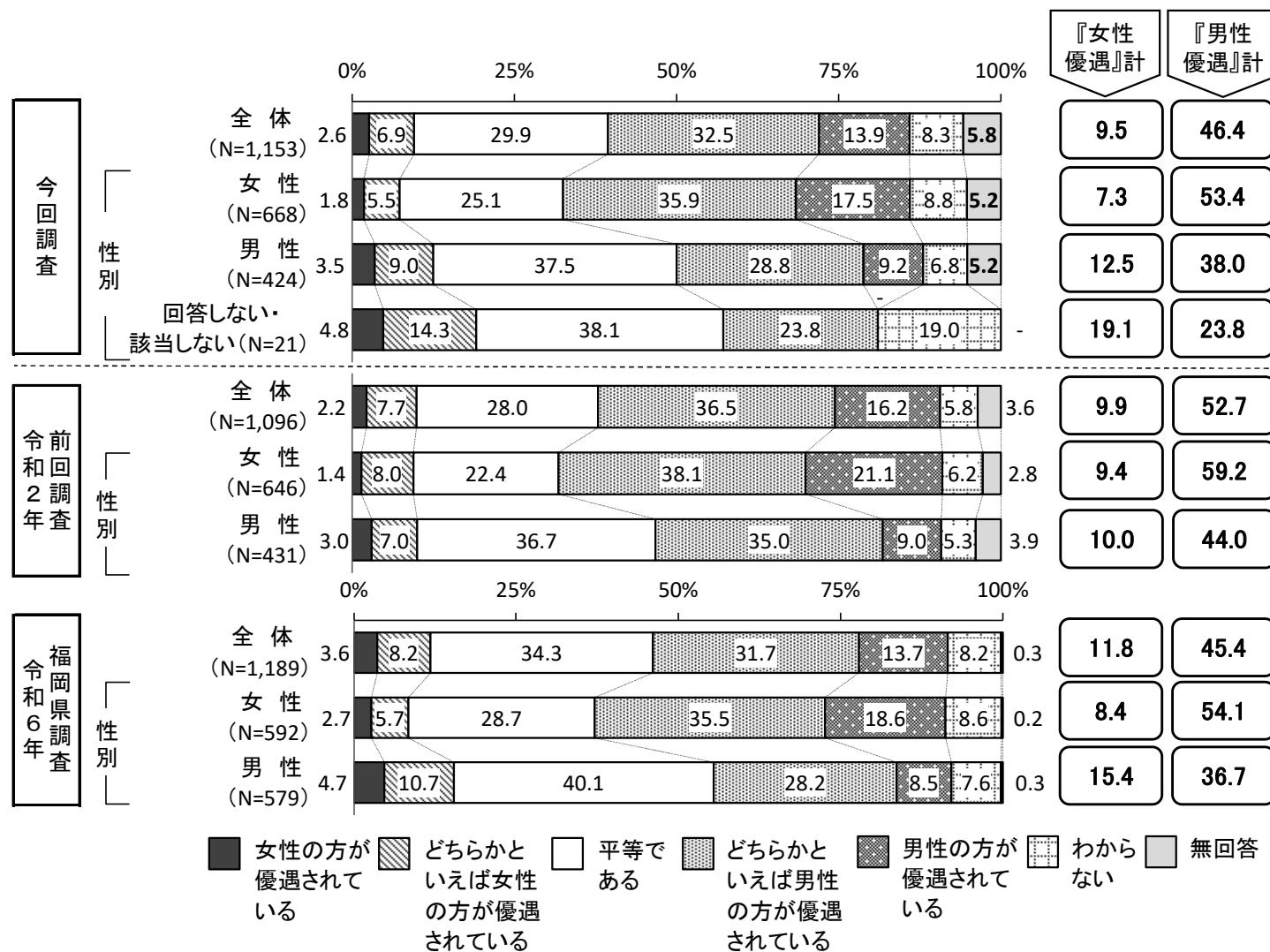


2. ジェンダーギャップ

女性の社会参画の遅れがにより、就労や意思決定の場において、女性の割合が十分とはいえず、活躍の機会が限られている状況。

・「平等である」との回答が高い分野は「学校教育の場」で約5割。その他の分野は『男性優遇』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では6割台半ばから7割に上る。
・前回調査から大きな変化はみられず、不平等感が解消されていないことがうかがえる。

図表 1－17 社会全体での男女の地位の平等感 [全体、性別]



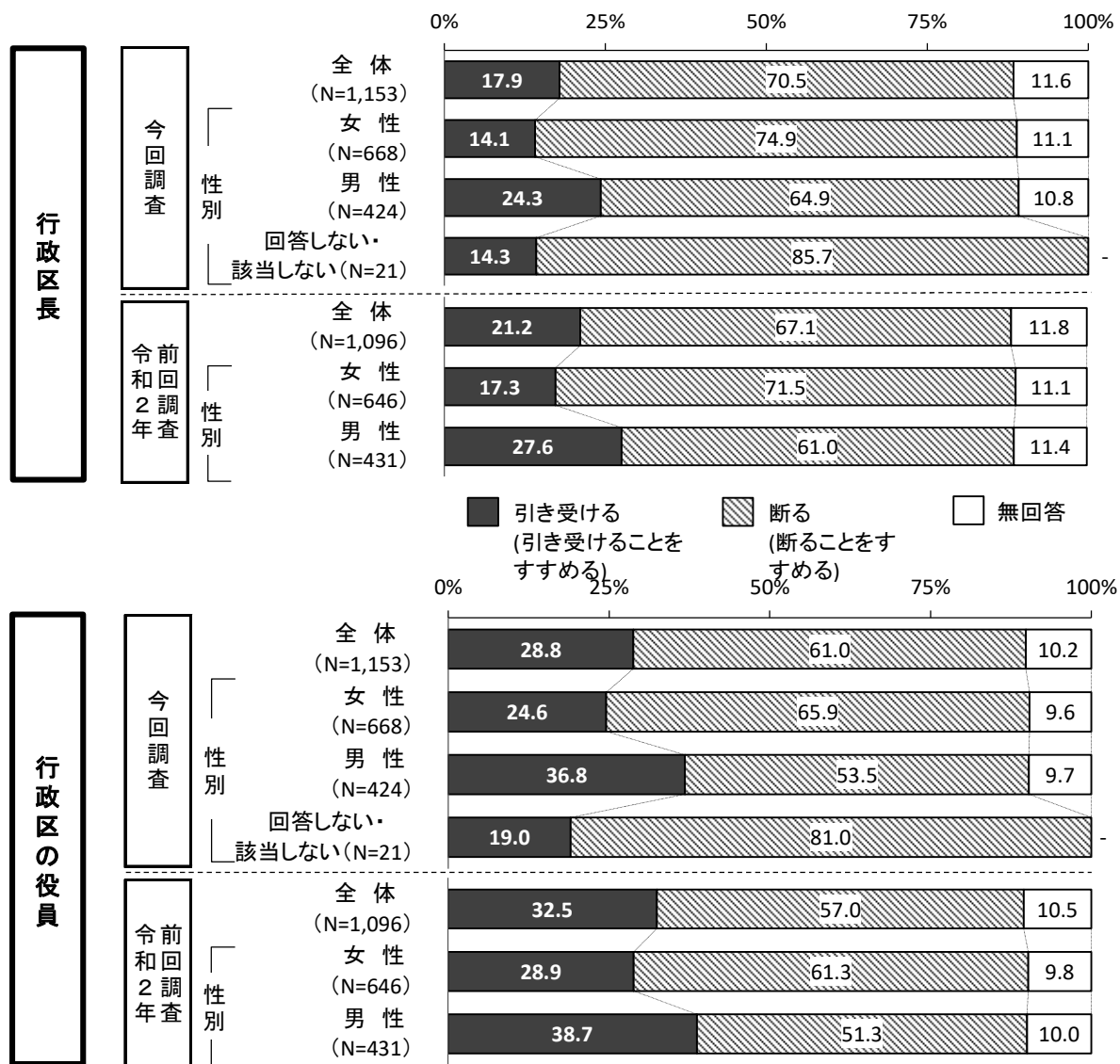
3. 地域活動の担い手不足

さらに、少子高齢化や人口減少の進行により、地域活動や担い手の不足が深刻化しており、男女共同参画の推進にも影響を与えている。

これらの課題に対しては、意識改革の継続的な啓発、女性の活躍支援の強化、相談体制の充実などが求められている。

地域の役職に推薦された場合、女性の「引き受ける」は1割台半ばから2割台半ばと男性の「引き受けることをすすめる」よりも低い。前回調査に比べ、男女とも「引き受ける(「引き受けることをすすめる」)がやや減少している。

【現状】地域活動での男女の役割分担 [全体、性別]
(前回調査比較)



嘉麻市の取組

・ 嘉麻市男女共同参画推進条例

男女の人権が平等に尊重され、かつ、男女が責任を分かち合いながら生きがいを持って共に 自立し、支え合い、個性や能力を発揮できる社会を築いていくことの重要性にかんがみ、男女共同参画の推進に関する基本理念を定め、市、市民及び事業者等の責務を明らかにするとともに、市の施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的、計画的に推進することを目的とする。

・ 男女共同参画社会基本計画（5年間の計画）

令和9年度施行の第4次嘉麻市男女共同参画社会基本計画の策定を本年度より行っており、審議会によるご意見を受けて、基本目標と基本的施策を立案し、具体的事業を実施する。女性100人会議で提案されたご意見も、計画に盛り込む予定としている。

・ 女性人材バンクの取組

女性が積極的に政策決定の場に参画できるよう取り組みを進めています。事前に名簿登を行い、審議会委員への紹介を行っている。

県内市町村の審議会等における女性委員の登用状況

(女性の比率が高い順に表示)

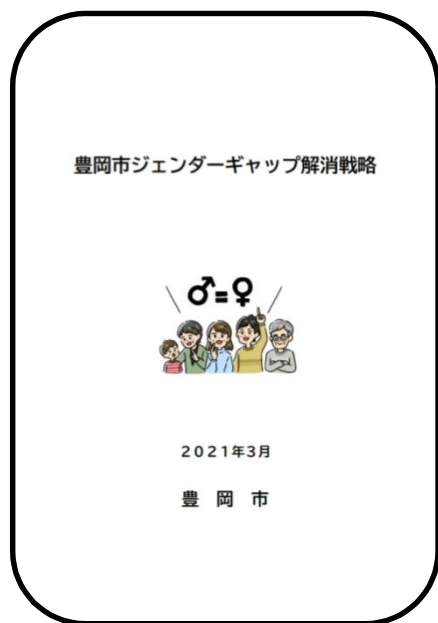
市町村名	審議会等数	うち女性委員を含む数	総委員数	うち女性委員数	女性比率(%)	前年度伸び率	条例制定	計画策定
1 北九州市	65	65	1,324	641	48.4	△ 2.3	○	○
2 久留米市	77	77	1,084	495	45.7	0.1	○	○
3 古賀市	25	25	232	104	44.8	1.5	○	○
4 大野城市	33	33	332	145	43.7	0.3	○	○
5 嘉麻市	50	49	559	234	41.9	2.1	○	○
6 糸田町	24	23	231	95	41.1	10.3	○	○
7 筑前町	32	29	425	171	40.2	1.5	○	○
8 福津市	58	57	653	261	40.0	△ 0.3	○	○
9 筑後市	26	25	276	108	39.1	3.5	○	○
10 飯塚市	75	75	851	329	38.7	0.9	○	○
11 宗像市	42	42	429	163	38.0	1.1	○	○
12 志免町	25	24	305	116	38.0	△ 3.0	○	○
13 うきは市	33	33	397	150	37.8	5.3	○	○
14 福岡市	72	72	1,525	571	37.4	0.7	○	○
15 小郡市	31	30	345	129	37.4	0.8	○	○
16 築上町	45	42	436	162	37.2	6.6	○	○
17 大木町	14	14	146	54	37.0	9.4	○	○
18 粕屋町	27	22	255	94	36.9	2.8	○	○
19 筑紫野市	33	33	334	122	36.5	△ 0.4	○	○
20 朝倉市	31	28	342	124	36.3	1.0	○	○
21 岡垣町	29	29	295	107	36.3	△ 2.3	○	○
22 遠賀町	37	36	322	117	36.3	△ 0.1	○	○
23 大牟田市	49	44	502	180	35.9	0.7	○	○
24 久山町	6	5	99	35	35.4	△ 4.4	○	○
25 中間市	28	25	368	130	35.3	△ 0.6	○	○
26 八女市	10	10	161	56	34.8	1.2	○	○
27 みやま市	20	19	202	70	34.7	2.8	○	○
28 小竹町	24	24	223	77	34.5	1.9	○	○
29 那珂川市	38	37	422	144	34.1	△ 1.3	○	○
30 水巻町	33	27	422	144	34.1	1.3	○	○

市町村名	審議会等数	うち女性委員を含む数	総委員数	うち女性委員数	女性比率(%)	前年度伸び率	条例制定	計画策定
31 直方市	35	31	414	137	33.1	△ 1.6	○	○
32 糸島市	41	40	497	163	32.8	0.6	○	○
33 福智町	21	19	207	67	32.4	12.3	○	○
34 広川町	13	9	108	34	31.5	9.5	○	○
35 古高町	23	21	239	75	31.4	△ 0.1	○	○
36 行橋市	12	9	112	35	31.3	4.0	○	○
37 太宰府市	32	31	307	96	31.3	2.9	○	○
38 豊前市	24	20	236	73	30.9	1.0	○	○
39 田川市	36	34	353	108	30.6	0.0	○	○
40 河田町	30	27	349	106	30.4	△ 2.5	○	○
41 みやこ町	28	24	259	75	29.0	2.2	○	○
42 篠栗町	20	17	195	56	28.7	0.1	○	○
43 芦屋町	36	33	327	92	28.1	△ 1.9	○	○
44 大刀洗町	13	11	136	38	27.9	16.4	○	○
45 春日市	26	24	271	75	27.7	△ 0.4	○	○
46 宇美町	22	17	203	56	27.6	△ 1.3	○	○
47 大川市	10	8	136	37	27.2	△ 0.3	○	○
48 新宮町	16	10	218	58	26.6	△ 0.8	○	○
49 柳川市	55	48	798	210	26.3	3.6	○	○
50 桂川町	17	15	181	46	25.4	2.0	○	○
51 川崎町	12	10	95	24	25.3	△ 2.3	○	○
52 鞍手町	32	25	311	78	25.1	0.6	○	○
53 宮若市	19	14	175	42	24.0	△ 7.3	○	○
54 添田町	31	24	234	54	23.1	△ 1.8	○	○
55 香春町	23	16	213	49	23.0	5.4	○	○
56 須恵町	12	9	106	22	20.8	6.0	○	○
57 上毛町	14	10	124	24	19.4	1.9	○	○
58 大任町	7	3	65	9	13.8	△ 2.9	○	○
59 赤村	0	0	0	0	0.0	-	○	○
60 東峰村						-	○	○
計	1,752	1,613	20,366	7,267	35.7	2.3	53	60

なぜ女性の意見（視点）が必要なのか？

豊岡市ジェンダーギャップ
解消戦略 一部抜粋

豊岡市事例



豊岡市の課題

10代で進学等で転出した若者のうち、20代で男性は2人に1人地元に戻ってきているのに対し、女性は4人に1人しか戻ってきていない。

女性に選ばれない要因

女性が女性であるというだけで、補助的役割のみに甘んじ、能力を磨き発揮する機会もなく、様々なものを断念を迫ってきた

豊岡市のまちづくりにおいて、

多様性は、まちや組織のエネルギーになります。

多様性は、まちや組織の変化への適応力になります。

このような考え方にに基づき、豊岡市は基本構想において、目指すまちの将来像「小さな世界都市－Local & Global City－」の必要条件の一つとして、「多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている」ことを掲げています。

ジェンダーは、市が掲げるこのビジョンの前提となる要素であり、この多様性戦略を進めるうえで、ジェンダーギャップの解消、つまり、男性と女性があらゆる場において平等に権利・機会・責任を持つことができる環境整備を行うことは、まちづくりに不可欠な戦略的課題といえます。

図2 豊岡市の若者回復率



【国勢調査のデータにより作成】